

チームけせんの和 だより

2020
vol.27
6月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字東和野11番地 TEL 0192-22-8671 FAX 0192-22-8672

新しい年度を迎えて

陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）会長 岩井 直路

新型コロナウイルス感染防止対策のため、医療・介護の現場にも多大な影響がありました。岩手県は2020年6月6日現在、感染者数ゼロを維持していますが、（岩手県は広い、人が少ないという理由だけではなく）皆さんの尽力のお蔭だと思えます。本当にありがとうございます。

このウイルスによる影響はまだ続くと考えられ、「新しい生活様式」や「新しい日常」の中で、市民の健康維持のための方策を考えていく必要があります。また、医療・介護の連携のあり方、スタッフの健康維持も、今までの常識にとらわれず変革していかなければなりません。

チームけせんの和だより Vol.1 巻頭言の石木先生の文章「高齢化社会に対応できる、介護予防や健康増進も視野に入れた活動を展開していきたい」の通り、“チームけせんの和”は「在宅療養を支える」ことより広い活動を実際には行っています。“劇団ばばば DVD”もその一例で、在宅療養にならないための予防・健康増進活動なのです。「新しい日常」の中でも可能な健康増進活動を市民に紹介、提供していくことが、今年度の喫緊の課題と考えます。（“チームけせんの和”に対する誤解をなくし）多くの医療・介護関係者や住民の協力も得るためにも、“チームけせんの和”の「陸前高田の在宅療養を支える会」というネーミングをバージョンアップすべき時ではないでしょうか。

新型コロナ感染拡大をきっかけに、テレワーク、Web会議が爆発的な広がりを見せ、（首都圏では）学校でもオンライン授業が当たり前のように行われるようになりました。医療・介護資源が少なく、広域である気仙医療圏では“効率良い連携”が必要と私は提唱してきましたが、このピンチをきっかけに、インターネットによるWeb会議や未来かなえネットの更なる活用を真剣に考え、行動を起こさなければなりません。介護予防対策、終末期の対応についても同様で、オンラインや既存の通信手段などを利用した方策も検討すべきだと思います。

環境の大きな変化のため恐竜が絶滅しても、哺乳類は“変化に対応”し生きながらえたように、私たちも環境の変化に対応していくことが必要です。元プロテニス選手の伊達公子さんの言葉、「継続するということは同じことの繰り返しでなく、成長し続けること」のように、私たちは“環境の変化に対応しながら”成長し、未来へ向かって継続できる医療・介護体制を築いていくべきでしょう。東日本大震災から10年を前に、新型コロナ危機に際し、“けせん”に思いを寄せながら。

劇団ばばば☆撮影風景 会長熱演中！！



チームけせんの和によせて

陸前高田市 福祉部長 齋藤 晴美



私は、陸前高田市役所福祉部長の齋藤晴美と申します。
昨年4月に、東京から赴任してきて、1年が経過しました。
初めての引っ越し、初めての一人暮らし、車の運転ができないと
いうことで、ワクワクする気持ちとちょっと不安な気持ちでスタート
しましたが、市役所の同僚をはじめ、周りの方皆さんが大変親切
で、岩手生活を楽しく過ごしています。

今年度から電動自転車を導入したので、行動範囲を広げてみようと思っています。
私の前職は厚生労働省の障害保健福祉部で、障害児・発達障害者の支援に関する業務を
担当しておりました。

皆様、4月2日は何の日かご存じですか？

毎年4月2日は、国連の定めた「世界自閉症啓発デー」で、社会全体で自閉症の理解が
進むよう、全世界で取り組みが行われています。その取り組みの一つとして、世界各地の
シンボルが「癒し」や「希望」などを表すブルーでライトアップすることで、自閉症の理
解促進、応援のためのメッセージを発信しています。アメリカではエンパイアステートビ
ルやナイアガラの滝、エジプトではピラミッドやスフィンクス、イタリアのピサの斜塔な
どなど…。4月にこちらに来て、一番初めに思ったのが、陸前高田市は、ノーマライゼー
ションという言葉のいらぬまちづくりを推進しているということで、その市のシンボル
である奇跡の一本松を、「癒し」や「希望」などを表すブルーでライトアップしたいとい
うことでした。



ライトアップされた
奇跡の一本松

今年4月、市役所関係課や岩手県にご協力いただき、悲願の奇跡の
一本松ブルーライトアップを行うことができました。厚生労働省在任
中に担当した東京タワーのブルーライトアップとは異なり、一からの
手作りで、どうしたら青くライトアップできるかという検討から始ま
りました。当日は、風が強く寒い日でしたが、同僚と3人でヘルメッ
トを被り、青いセロファンを風で飛ばされないように、ライトに貼り
付けていきました。予定していた時間より日が暮れるまで時間がかか
り、報道の方にも寒い中長時間お待たせしてしまいましたが、きれい
にライトアップされた写真が新聞紙面に紹介されていたのを目にした
際には感無量でした。一緒にがんばってくれた同僚や報道の方には、
感謝の気持ちでいっぱいです。

令和2年は新型コロナウイルスへの対応に追われて始まりま
したが、岩手県は感染者ゼロであったことは、チームけせんの
和の皆様の日頃からのご尽力と適切な対応のおかげであると思
っています。こんな時だからこそ、医療、介護、保健等の関係
者の皆様にご協力いただきながら、連携してこの困難を乗り越っ
ていきたいと考えております。



強風の中セロファンを貼り終える

超高齢社会へのソフトランディングの拠点 —陸前高田市保健福祉総合センター—



陸前高田市保健福祉総合センター 所長 石木 幹人

この4月から、二又診療所長に代わり陸前高田市保健福祉総合センター所長を拝命しました。センターは、一般事務1人、保健師3人、社会福祉士1人、ケアマネジャー4人、認知症地域支援推進員1人、介護予防指導員2人、生活支援コーディネーター2人、ふれあい教室（児童発達支援）関連職員4人、地域包括ケアコーディネーター4人、私の総勢22人で仕事をしている。仕事の内容は高齢者の健康や生活の相談一般、ケアが必要な高齢者のケアマネジメント、介護予防に必要なプログラムの企画実行、生活支援が必要な住民の発見及び支援体制の構築、認知症に対する知識と理解を深めるための啓発活動、身体発達が心配なお子さんの支援など多岐にわたる。

陸前高田市の人口動態の変化は高齢化率が2025年には45%、25年後の2045年には57%と予測されている。2054年、人口は約8000人減少し11000人程度となり、15歳から64歳の生産年齢人口は現在の半分以下の4000人まで減少する。65歳以上の高齢者人口は少し減少するが、特に75歳以上の後期高齢者人口は現在とほとんど変わりなく推移する。生産年齢の人1人あたり2人の高齢者を支える必要がある。ここをどのようにして乗り越えるかが陸前高田市だけでなく、全国の大きな課題である。

高齢者自身が自立した年齢を重ね支援の必要な高齢者を支える仕組みを作り上げていかなければ陸前高田市が消滅しかねないことが予測される。全国の先進事例を学びながら、陸前高田市に最善の方策を模索し、元気で希望に満ちた陸前高田市になるような基礎を築いていけたらと思う。チームけせんの和は多職種の集団であり、それぞれの職能を活かし、協力して明るい陸前高田市の未来を構築していこう。



チームけせんの和に寄せて

国民健康保険二又診療所 所長 鈴木 高

今年4月より国保二又診療所に常勤として勤務しています。

私の基本的な治療方針は、一人でできる範囲のことを無理せずに地道に行っていくというものです。無理をするとミスをする確率が高くなることを今までの経験から学んだからです。これまでに福島県の国保川内村診療所と宮城県栗原市の花山診療所と兵庫県宍粟市の国保波賀診療所とにほぼ2年間ずつくらい勤務してきました。若い時に医局からの派遣で伊豆七島の式根島診療所に短期間ですが勤めたことがあり、その時から医師としての最後の仕事は僻地の診療所勤務もいいかなという思いがありました。しかし、こんなに何か所もの診療所に行くことになるとは思っていませんでした。

東日本大震災のときは川内村診療所に勤めていました。この診療所は福島第一原発から20kmのところであり、しばらくの間避難生活を余儀なくされ単身であちに行ったりこっちに行ったりしたために引っ越しが苦にならなくなりました。それでふらふらと勤務先をかえるようになってしまったのです。

また2年という期間が大きなミスなく診療できる適度な期間だと思われれます。これ以上だと慣れと油断から失敗することがあるような気がするのです。若い時ならば失敗してもこの失敗を次に活かしてとポジティブに考えることもできますが、この年になると後悔だけが残ります。だから、自分の能力にあった診療を心掛けているのです。

二又診療所にも2年間は勤めたいと考えています。



編集後記

新型コロナウイルスの余波で今年度始めの総会も開催できず、書面決議での承認を頂きました。

現状により研修会の開催も未定ではありますが、会員の皆様からアンケートを通してご要望が多数ありましたので、状況をみながら検討して参ります。

また劇団ばば☆の第4作DVD「くすりは正しく使おう！」のご購入希望も多数頂いておりましたが、仕上げに手間取りお届けが遅くなり、皆様にご迷惑をおかけしまして申し訳ありませんでした。内容は服薬の注意点や訪問薬剤管理指導等をわかりやすく、かつ楽しく演じておりますので、ご購入希望の方は引き続きご一報頂ければ対応いたします。コロナウイルスの情勢が安定し会員の皆様と以前のように研修会や懇親会にてお会いできることを楽しみにしております。 (菅野)